プレミアム付き商品券を発売

11月6日（月）から甲佐町商工会

11月6日（月）甲佐町商工会（中村幸男会長）では、「甲佐町復興支援プレミアム付き商品券」の発売を開始しました。

同商品券は、熊本地震などの震災からの本町の復興支援の一環として、町内事業者の活性化や消費者の購買意欲を増進させ消費喚起をうながすことを目的として販売。プレミアム分について町から補助金を受けて、同商工会が実施するものです。

500円券が12枚、1，000円券が6枚の1冊合計18枚つづりの同商品券は、額面12，000円を10，000円で購入でき、20％お得になっています。購入できるのは町民の方のみで、1人3冊まで購入できます。同商品券は町内の取扱登録をした店舗などで使用できます。

販売初日の6日（月）には、販売所である同商工会館に商品券を求める住民などが列をつくりました。同商品券の有効期限は、平成30年1月31日（水）です。

▼「震災復興支援プレミアム付き商品券」は、甲佐町商工会館で販売中

交流と触れ合いの12キロ

10月27日（金）甲佐町ナイトハイクを開催

10月27日（金）、甲佐町ナイトハイクが開催されました。

青少年の育成と心身の鍛錬を行うとともに、健康増進および異世代交流、また家族の触れ合いを深めることを目的に、甲佐町青少年健全育成町民会議と町教育委員会が主催。

町生涯学習センターを発着とし、午後7時に出発。益城橋を渡って美里町の二俣五橋で折り返し、日和瀬橋を渡って戻る約12キロのコースを約130人が歩きました。到着後には、本町の特産品などの参加賞が配られました。

▲町生涯学習センターをスタートする参加者たち

◀ジャズを堪能するオータムコンサート

ジャズが響き渡る秋の夕べ

10月28日（土）オータムコンサートを開催

10月28日（土）町生涯学習センターで、「JAZZオータムコンサート」が開催されました。

同コンサートは同センターの自主文化事業として、町教育委員会が主催、甲佐町文化協会（村上邦生会長）が後援。

県内でも活躍されているサックス奏者の中田博さん、ピアノ奏者の園田智子さん、ベース奏者の小車洋行さん3人によるジャズトリオが出演。ジャズの名曲や水戸黄門の曲などの演奏があり、来場した約80人が芸術の秋を楽しみました。

40代女性は「秋の夜に、素敵な音楽の贈り物をありがとうございます」と話しました。

物産フェア出演で感謝状

竜野保育園マーチング

11月4日（土）、益城町のグランメッセ熊本で開催された第22回くまもと物産フェアにおいて、竜野保育園（吉本征一郎園長81人）のマーチングが披露されました。

同フェアは県産品の普及を目的として、熊本県商工会連合会などが主催。園児たちの規律の整った演奏とマーチングに、会場からは大きな拍手が送られました。

また、同園のマーチングが長年に渡り同フェアのオープニングを飾っていることに対して、同連合会から感謝状が贈られました。

▲熊本県商工会連合会から感謝状を受け取る吉本園長

◀宮部局長（左）へ要望書を手渡す奥名会長

田口橋早期完成を県に要望

小川御船間道路整備促進期成会

11月6日（月）県庁で、小川御船間道路整備促進期成会（奥名克美会長）が県に対して、小川御船間の県道整備の要望活動を行いました。

同会は、甲佐町、宇城市、御船町の1市2町からなる組織で、小川・御船間の総合的な地域発展を図るため、道路整備の促進を目的として活動しています。

町関係では、主に①田口橋の災害復旧工事の早期完成、②田口橋右岸側の取付道路改築整備、③県道御船甲佐線の山出先から滝川地内までの改築整備について要望。奥名克美会長から県土木部の宮部静夫道路都市局長に、要望書を手渡しました。

たすきをつなぎ甲佐路を力走

町駅伝競走大会・地区対抗駅伝大会

▲号砲とともに一斉にスタートを切る第47回町駅伝競走大会の小学男子・小学女子の部の1区の走者たち

11月5日（日）、第47回町駅伝競走大会と第43回地区対抗駅伝大会が開催されました。

同大会は、駅伝競走の普及と幅広い年代を対象とした健康つくりを目的に、町教育委員会、甲佐町体育協会、甲佐町陸上競技協会が主催。町駅伝競走大会には、町生涯学習センターを発着とする5区間7.2キロのコースに8部門27チームが出場。地区対抗駅伝6区間4.8キロは、全11チームが出場し、力走を見せました。

【町駅伝競走大会優勝チーム】

小学男子の部・白旗少年野球A29分49秒、小学女子の部・龍野ドラゴンズA32分57秒、中学男子の部・Teamおっさん29分15秒、中学男女混合の部・梶原組32分13秒、高校一般男子の部・甲佐高校B27分47秒、高校一般女子の部・甲佐高校職員Bチーム37分12秒、高校一般男女混合の部・上益城農協B33分23秒

【地区対抗駅伝大会結果】

①竜野Aチーム15分57秒、②甲佐Dチーム17分53秒、③竜野Bチーム18分28秒

住宅用火災報知器を贈呈

熊本県消防設備協会から町へ

10月14日（土）、熊本県消防設備協会から、町へ住宅用火災警報器が寄贈されました。

同警報器は煙を感知すると音や音声で火災の発生を知らせる機器で、寝室などへの設置が義務付けられています。

贈呈式は、「上益城消防フェア」（上益城消防組合消防本部主催）で行われ、林明副会長から奥名克美町長へ43個贈呈されました。

寄贈された警報器は、町消防団を通じて、未設置の独居老人世帯などに設置を予定しています。

▲住宅用火災警報器の目録を受け取る奥名町長（左）

文化祭で交流を深める

白旗仮設団地・乙女仮設団地

▲白旗仮設団地の文化祭で、健康体操「これから音頭」を踊って楽しむ団地入居者など参加者の皆さん

町内の応急仮設団地で文化祭が催され、10月27日（金）には乙女第２仮設団地で、11月３日（金）には白旗仮設団地で、５日（日）には乙女仮設団地で開かれました。

各文化祭は、仮設団地の住民が文化的に交流し親ぼくを図ることを目的に、甲佐町地域支え合いセンター（村上浩二センター長）が主催し、各団地内の「みんなの家」で開催されました。

白旗仮設団地では、乙女第２仮設団地で行われている折り紙や、白旗仮設団地の入居者による水墨画、絵手紙などさまざまな作品が展示されました。ステージでは入居者によるカラオケや同センター相談員による炭坑節が披露されました。また、座ったままでもできる健康体操「これから音頭」を参加した皆さんで踊って楽しみました。

乙女仮設団地では、折り紙などの展示のほか、甲佐グリーンハーモニーと左座ファミリーによる合唱コンサートが行われ、入居者による日本舞踊やカラオケなどが披露されました。最後は景品の当たるビンゴゲームで盛り上がりました。

◀右から沼田さん、芦原さん、野仲さん、豊永さん

困った時は相談しよう

11月14日（火）乙女小学校で人権講話

11月14日（火）乙女小学校（松田秀喜校長124人）で、人権講話が行われました。

同校は人権学習の一環として、人権擁護委員の芦原博幸さん（糸田区）、豊永康法さん（横田区）、沼田峰子さん（北原区）、野仲俊一さん（上早川四区）を招いて、全児童を対象に実施。悩み相談など人権に関する講話に、真剣に耳を傾けました。

沼田さんは「困ったときには、友だちや先生や家族が助けてくれます。心を開いて何でも相談できる友だちをつくってください」と講話。学習の最後に、人権啓発グッズを同委員から児童全員に手渡されました。

▼町消防団員の大きな掛け声に合わせてきねを振る若草保育園の園児たち

防火もちつきで火災予防

町消防団と若草保育園幼年消防クラブ

11月10日（金）若草保育園（元村健正園長99人）で、「防火もちつき」が行われました。

同イベントは11月９日（木）～15日（水）の「秋の全国火災予防週間」に合わせて、町消防団（松尾憲親団長483人）が幼年消防クラブを設置している同園で実施。団員とのもちつきを通して、消防団活動への理解と協力、火災予防の呼び掛けなどを目的として行われ、本部役員や保護者なども参加しました。

園庭で園児たちの大きな掛け声に合わせて、団員たちが威勢よくもちつき。園児たちも交代できねを振るい、火災予防の願いを込めて力強くもちをつきました。

もちつきの後には、消防自動車の乗車体験を兼ねて、園児たちが町消防団とともに町内の福祉施設などを訪問し、防火ポスターを配布。訪問先の施設入居者などの前で整列した園児たちは、「火遊びは絶対にしません」と大きな声で宣言し、防火を呼び掛けました。

昔ながらの農具が復活

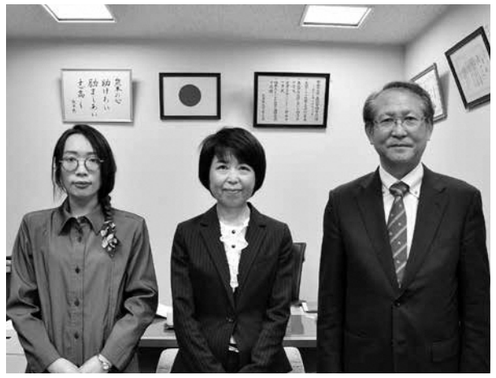
古民具を使ったソバの脱穀に挑戦

10月27日（金）上早川の田代地区で、古民具を使ったソバの脱穀が行われました。

耕作放棄地の解消と地域住民の交流を図ることを目的として地域住民で結成された上早川北部資源保全会（田上晴二代表）が実施。同会では、遊休農地を活用してソバの植え付けから収穫までを取り組んでいます。

８月に種まきしたソバを、農家に眠っていた昔ながらの農具「びゃー」を使って脱穀。参加者は「力を込めた以上によく落ちる。先人の知恵を感じました」と話しました。

▲「びゃー」を使ってソバを脱穀する参加者たち


◀指導にあたる越名さん（中央）と上松さん（左）

甲佐高校生のための公営塾

町長マニフェスト「甲佐高校の魅力化支援」

11月６日（月）県立甲佐高校で、「甲佐高校生のための公営塾」が開塾しました。

同塾は、奥名克美町長の掲げるマニフェストの１つである同高の特色づくりの一環として、町教育委員会が運営。一人一人の希望する進路や学習の進捗に合わせた個別指導を、平日の放課後に同高で実施。ディスカッションなど社会人として必要な能力を身に付ける授業も行います。

指導者として、町地域おこし協力隊に新たに任命された越名智美さん（大町区）と上松愛佳さん（同区）が、勉強の指導や助言、相談に当たられます。